

委員会先進地視察報告書総括表

1 視 察 日	令和 6 年 7 月 23 日 ～ 7 月 24 日			
2 視察地・項目	①	福岡 県 久留米 市	久留米シティプラザについて	
	②	大阪 府 泉佐野 市	エブノ泉の森ホールについて	
	③	県	市・町	
	④	県	市・町	
3 参 加 者	1.	堀内 学	委員長	7. 松尾 祥秀 委員
	2.	竹森 学	副委員長	8. 古閑森 秀幸 委員
	3.	南波 伸孝	委員	9. 里脇 清隆 委員
	4.	中崎 秀紀	委員	10. 生野 雄大 随員書記
	5.	水上 享	委員	11.
	6.	小林 史政	委員	12.
4 視 察 経 費	590,500 円 ※（ 10 ）人分			

公 共 施 設 整 備 調 査 特 別 委 員 会

視 察 報 告 書

報告者 小林 史政

1 視察日	令和 6 年 7 月 23 日		
2 視察地	福岡県 久留米市		
3 参加者	1.堀内 学 委員長	5.中崎 秀紀 委員	9. 小林 史政 委員
	2.竹森 学 副委員長	6.南波 伸孝 委員	10. 生野 雄大 書記
	3.松尾 祥秀 委員	7.水上 享 委員	
	4.里脇 清隆 委員	8. 古閑森 秀幸 委員	
4 視察項目	久留米シティプラザ について		
5 視察先 選定理由・目的	大村市において今後計画されている文化ホール建設の規模や内容を調査・検討すべく、 現地視察を行うと同時に運営や建設後の利用状況などを確認するために選定した。		
6 視察内容	久留米市及びシティプラザについて ① 久留米市の概要 ・面積／229.96 km² ・人口／300,516 人 ・世帯数／142,025 世帯 ・福岡市・北九州市の政令都市に次ぐ福岡第三都市 (R6 / 4 月時点) ② シティプラザの立地について		



③ シティプラザの位置づけ

○整備の背景

- ・施設整備が老朽化し、話題性のある鑑賞公演が開催できない市民会館の建て替えの必要性
- ・医療や高等教育機関が集積しながらも、学会等の受け皿となる施設が不足
- ・H17年ダイエー、H21年に久留米井筒屋の閉店など、中心市街地の求心力が著しく低下



○整備の方向性(H23. 2月 発表)

(1)整備基本方針

ホール機能とコンベンション機能を併せ持った中核施設を中心市街地に整備し、文化芸術の振興とまちなかの賑わい創出による中心市街地の活性化を図る。

(2)施設機能

- ・ホール機能 ・創造機能 ・交流機能 ・コンベンション機能

④ 事業スケジュール

事業スケジュール

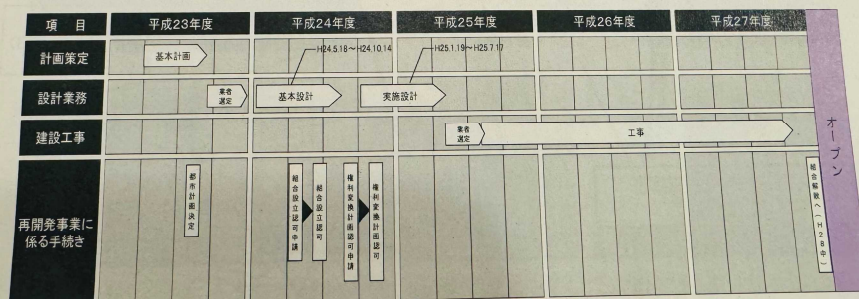
7

○ 整備スケジュール

- 基本設計：H24年 5月～同年10月（約6か月間）
- 実施設計：H25年 1月～同年 7月（約6か月間）
- 工事入札：H25年 8月～同年 9月（工事合計9本）
- 工事契約：H25年 8月～同年 9月（工事合計9本）
- 工事：H25年10月～H28年 1月（約28か月間）
- 開館：H28年 4月

○ 再開発事業スケジュール

- 準備組合設立：H23年 1月
- 都市計画決定：H23年11月
- 本組合設立認可：H23年12月
- 権利変換期日：H25年 7月
- 建築工事の完了公告：H28年 1月
- 施設建築物の登記：H28年 2月
- 組合解散：H30年 3月



⑤ 整備事業費

整備事業費

8

○ 整備費と市の実質負担額

		事業費 計	8 番街区 (市街地再開発事業)	9 番街区 (市直轄事業)
決 算 額		177.0 億円	121.5 億円	55.5 億円
財 源	国庫補助金 (暮らしにぎわい再生事業)	41.0 億円	28.6 億円	12.4 億円
	合併特例債 (H24年度 繰上り)	125.8 億円	85.0 億円	40.8 億円
	都市プラザ整備基金	3.0 億円	2.5 億円	0.5 億円
	一般財源	7.2 億円	5.4 億円	1.8 億円

【市の実質負担額の計算】

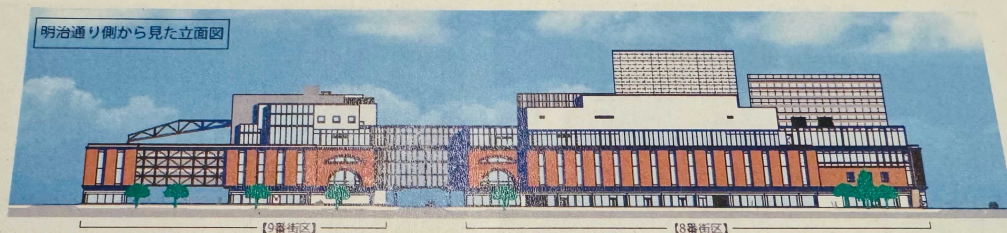
A	一般財源	7.2 億円	5.4 億円	1.8 億円
B	その他（基金）	3.0 億円	2.5 億円	0.5 億円
C	地方債の元利償還額	130.0 億円	87.9 億円	42.1 億円
D	（交付税措置額）	(89.2 億円)	(59.7 億円)	(29.5 億円)
実質負担額 A+B+(C-D)		51.0 億円	36.1 億円	14.9 億円

⑥ 施設全体図

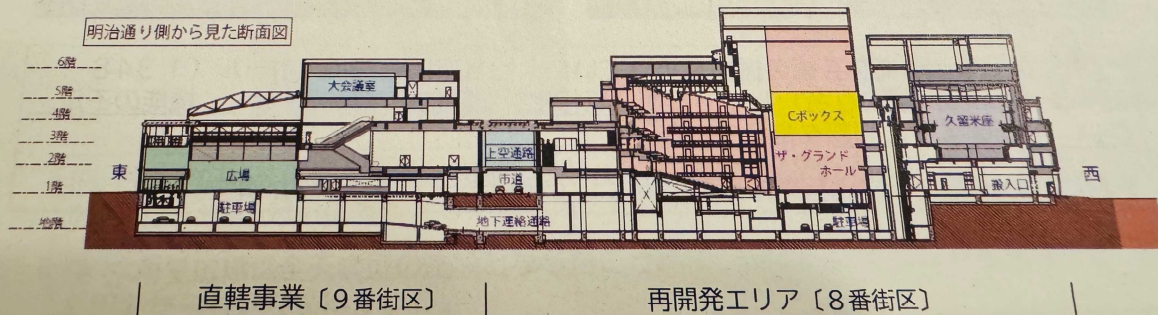
施設全体図

9

○ 立面図



○ 断面図

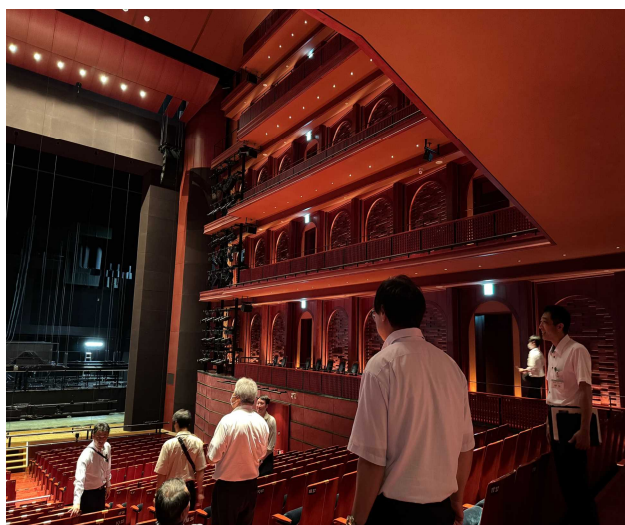


⑦久留米シティプラザの基本理念

「賑わいと憩いが調和する【文化】・【活力】の創造空間」

・・・基本機能として

「文化芸術振興の拠点」、「広域交流促進の拠点」、「賑わい交流の拠点」等



⑧ 組織体制

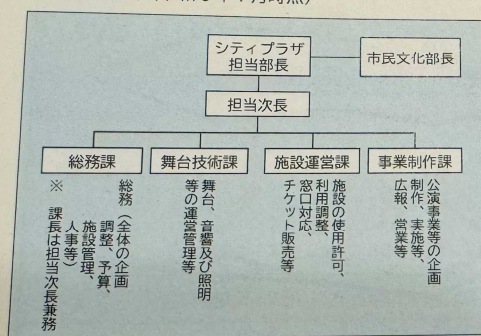
組織体制

28

運営には、基本方針の決定や許可などの行政処分を行う行政職員だけでなく、ホール等の運営に関する豊富な経験や技量、創造的な発想力を有する専門的なスタッフが必要不可欠なことから、行政職員と専門スタッフ職員を基本に構成している。

また、業務の一部を専門業者等への委託により行っている。

○組織体制図（令和6年7月時点）



○職員の配置状況（令和6年7月時点）

職種	人数	内訳
行政職員	10	担当部長1、担当次長1、総務課4、施設運営課2、事業制作課2
専門スタッフ職員	23	総務課2、舞台技術課4、施設運営課8、事業制作課9
任期付職員	7	総務課1、施設運営課6
合計	40	
業務委託	10	舞台技術サポート
	-	ビル管理、清掃、警備、広場管理

※専門スタッフ 5名欠員（舞台技術課3、施設運営課2、事業制作課1）

P31

人件費

施設稼働率

⑨ 施設稼働率

施設稼働率

29

開館以来、優れた音響設備など施設の評判は年々高まり、施設稼働率も上昇傾向にあったが、コロナの影響により、令和2年度は、ホール系は1/2以下、広場は1/3にまで落ち込んだ。

令和3年度からは回復傾向にあり、令和5年度、ホール系はコロナ前の8割～9割の回復に留まっているものの、会議室系はコロナ前より高い稼働率になっている。

	目標	H28～R1 平均	R2	R3	R4	R5
ザ・グランドホール	88%	82%	40%	56%	73%	72% <i>全日 68%、土日祝 84%</i>
久留米座	73%	62%	27%	44%	57%	59% <i>33%、81%</i>
Cボックス	65%	56%	20%	30%	52%	50% <i>44%、66%</i>
展示室	75%	66%	42%	48%	54%	50%
会議室	90%	84%	76%	80%	94%	94%
スタジオ	65%	53%	30%	39%	57%	60%
和室	50%	39%	19%	30%	39%	48%
六角堂広場	70%	65%	20%	33%	47%	52% <i>37%、81%</i>

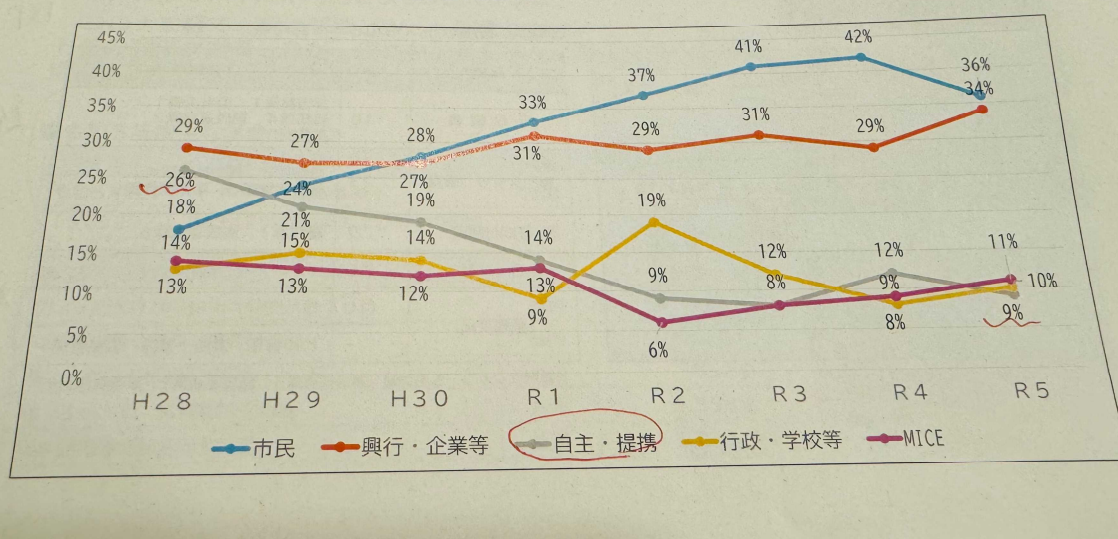
⑩ 主体別の利用状況

主体別の利用状況

30

開館当初、構成比が18%だった市民の利用は、令和5年度には36%にまで増加。興行・企業等の利用も微増傾向。

一方で、開館当初、26%を占めていた自主・提携事業は、9%まで減少。
※令和5年度はR6.1月末までの利用状況



11、来場者数

来場者数

31

- ハード面での強みや全国のプロモーターなどとのネットワークを活かし、
- ・上質で話題性のある鑑賞事業
 - ・関係団体と連携した全国規模・国際規模の学会などのMICEの誘致
 - ・六角堂広場での食の大型イベントをはじめとした賑わいづくり
 - ・市民の文化芸術活動の支援
- に取り組んでいる。

単位：人

	H28～R1平均①	R2	R3	R4	R5②
ザ・グランドホール	131,482	26,250	52,123	104,083	94,288
久留米座	22,227	3,987	7,222	15,201	25,599
Cボックス	10,517	959	2,683	3,633	6,483
展示室	13,829	4,351	5,296	7,393	9,409
大中小会議室、 スタジオ、和室	46,325	23,748	30,656	52,494	59,754
六角堂広場	159,968	7,645	10,554	86,887	135,991
共用スペース (カタチの森 他)	137,399	51,289	50,600	68,855	103,079
MICE	25,778	2,141	4,294	11,744	16,518
合計	547,524	120,370	163,428	350,290	451,121

※年間目標来場者は、612,800人

※平成28年度は開館4月27日、展示室、会議室、スタジオ、和室は5～3月、ザ・グランドホール、久留米座、Cボックス、六角堂広場は8～3月の実績

8割目

12、収支状況

収支状況

31

決算の推移

		H27.3月 条例制定時	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5 見込	単位：千円
歳 入	施設・備品 使用料	135,000	92,113	96,830	115,543	88,533	54,928	71,091	101,243	117,923	
	駐車場 使用料他	47,000	26,170	22,431	24,309	22,296	14,374	17,433	22,757	23,275	
	チケット収入 ・補助金他	50,000	82,208	34,593	92,042	28,178	19,422	29,488	19,714	16,135	
	計	232,000	200,491	153,854	231,894	139,007	88,724	118,012	143,714	157,333	
歳 出	施設維持管理費	438,000	402,510	441,081	478,324	466,560	450,953	462,679	491,456	505,431	
	文化芸術事業費 ・情報発信費	100,000	218,056	114,143	151,101	50,491	25,473	29,118	23,605	20,630	
	計	538,000	620,566	555,224	629,425	517,051	476,426	491,797	515,061	526,061	
	人件費	282,000	331,061	286,893	260,713	240,043	232,675	252,729	269,344	261,258	
収 支		△588,000	△751,136	△688,263	△658,244	△618,087	△620,377	△626,514	△640,691	△629,986	
対H27.3見込増減		—	163,136	100,263	70,244	30,087	32,377	38,514	52,691	41,986	

電気代
維持費

13、シティプラザの成果

○年間来場者数…旧市民会館と旧六角堂広場の合計31万人(H27)→52万人(R1)

	○経済波及効果…年間 14 億 5 千万円 (R1) と推計 ○中心市街地の空き店舗率…18.0% (H27) →14.7% (R5) に改善 ○市内ホテルの宿泊者数…43 万 4 千人 (H27) →46 万 9 千人 (R1) 8.1% 上昇 等 14、シティプラザにおける今後の課題 (1) 文化芸術事業の充実面の課題 ○鑑賞者の掘り起こしや育成、普及活動の充実と地域資源を活かした文化の創造・発信の強化 (2) 施設運営及び経済面の課題 ○財政負担の縮小や新たな収入の確保、更なる施設の稼働と集客の向上 (3) 運営体制面の課題 ○専門的能力を持った人材育成と確保、今後の運営形態の検討
7 委員会所見	今回、公共施設整備調査特別委員会において市民からかねてより待望久しい、市民文化ホールの建設に向けて、福岡県久留米市にある久留米シティプラザの視察を行なった。 まずはじめに特筆すべきはメインホールとなるザ・グランドホールの施設整備が非常に充実しており、優れた音響機能を持つ主力ホールが印象深かった。クラシックやオペラ、ミュージカル等の高品質な鑑賞公演や舞台に対応しており、座席数も 1,514 席で客席の後方から約 30m と近い点も魅力に感じた。更には座席のスペース感やホールの内装についても気品と重厚感があり、文化芸術の向上につながる様な豪華な内容とも感じられた。 その他にも用途に合わせた施設整備が従実しており、日本の伝統芸能にも対応した「久留米座(399席)」やリハーサルや会議、展示会、レセプションなど様々なニーズに対応できるような「C ボックス(144席)」、加えて展示、会議専用の施設もあり内容は充実したものとなっていた。また単なるハード面の充実だけでなく、文化芸術振興事業として、久留米ならではの音楽や店頭芸能等の展開や市民団体等の活動を支援し、大きなホールを活かした多彩なジャンルの鑑賞事業も実施されている。更に、文化芸術に触れるきっかけづくりとして、体験型やアウトリーチの事業にも注力し、子ども向けの想像力・感性を高める多様な事業も行っている。加えて、まちなかの賑わいを創出するため、商店街との連携も図りながら情報発信や情報提供、イベントの同時開催なども行われていた。 兎にも角にも、内容的も素晴らしい久留米シティホールであるが、財政面と組織体制については今後の課題として人材確保に苦慮している点や議会からの一定の理解を得てはいるものの毎年約 6 億円強の赤字決算となっていた。 大村市の人口規模から考察すると、同等の施設整備内容は難しいにしろ、やはりメインホールの収容人数は有名アーティストを呼び込むなど興行も踏まえて 1,000 人規模の内容にすべきとの意見も交わされた。今後も費用対効果をしっかりと検討し、結論を出していかなければならないと感じた。

公共施設整備調査特別委員会

報告者：古閑森秀幸

1、視 察 日	令和6年7月24日	
2、視 察 地	大阪府泉佐野市	
3、参 加 者	堀内学 委員長	南波伸孝 委員
	竹森学 副委員長	古閑森秀幸 委員
	里脇清隆 委員	生野雄大（書記）
	中崎秀紀 委員	
	水上 享 委員	
	小林史政 委員	
	松尾祥秀 委員	
4、 視察項目	エブノ泉の森ホールについて	
5、視察先進地 選定理由と目的	大村市と同等の人口規模で1,300人程度の収容できる 大ホールを持つ自治体であるため。	
6、視察内容	泉佐野市の概要 泉佐野市は、大阪市と和歌山市のほぼ中間に位置し、美しい自然環境に恵まれた都市です。商工農漁業が調和的に発展してきましたが、近年は関西国際空港の開港に伴い、商業やサービス業が盛んになっています。面積は約56.51平方キロメートル、人口は約99,000人、世帯数は約49,855世帯です。温暖で降水量の少ない瀬戸内式気候に属しています。市名の由来は、中世以来の村名「佐野」に旧国名「和泉」を冠したものです。昭和23年に市制が施行され、その後5つの村と合併して現在の市域が形成されました。関西国際空港の開港により、世界と日本を結ぶ玄関都市としての役割を果たすべく、21世紀にふさわしい国際都市を目指してまちづくりに取り組んでいます。 公共施設の運営と財政状況に関する報告 2023年5月よりインターネットでの支払いクレジットが導入され、運営効率が向上。公共施設の運営は指定管理者方式で行われており、建物の販売後に運用される。セールアンドリースバック方式により、債務が減少し、財政の健全化が図られる。 過去の財政データによると、経常収支比率は107%、自主財源比率は52%、公債費比率は15%であり、収支のバランスに課題が見られる。 関西フィルハーモニーやNHKのど自慢などのイベントは成功を収めているが、コロナ禍で利用率が低下。駐車場不足や老朽化した設備の維持管理も課題となっている。今後は、インターネット環境の整備や多様な文化活動を通じて利用者の増加を目指す。また、高齢者や子供向けの設備改善も必要とされる。総合的な施設の維持管理と更新を行い、持続可能な運営を目指すことが重要である。 泉の森文化会館は、交通の便や駐車場の問題が指摘されています。公共交通機関の利用が推奨されていますが、駅からの距離（直近の駅から徒歩で20分かかる）が課題です。また、メール会員制度が導入され、1,500人の会員がいますが、従来の会員制度は廃止されました。 職員数は15名で、内訳は 6名が正規職員です。市役所からの派遣はなく、現地での対応が求められています。文化会館の利用率は低く、大ホールや小ホール、和室などの利用が進んでいません。特に大ホールの規模や利用目的についての検討が必要です。収容人数や運営費についても議論されており、学校の発表会や市民の利用を考慮した施設運営が求められています。最後に、興行を行うには1,500席程度の収容が必要とされ、固定ファンを持つアーティストの公演が検討されています。	

6、視察内容

泉の森ホールは関西フィルハーモニーや有名アーティストの公演などで満席になることが多いが、そのほかのイベントでは1,376席のホールが埋まることは少ない。ホールの運営はチケット代やホール貸料でトントンにすることが目標である。令和元年度と比較して利用率は5%低下しているが、回復を目指している。ホールには音楽専用ホールや多目的ホール、駐車場などの設備があり、維持管理の課題がある。高齢化やインターネット普及に伴い、手すり設置やデジタル化が進められている。

1. 施設概要について

泉佐野市の総合文化センターは、平成5年8月から平成8年3月までの2年半で建設され、総事業費は用地買収費を含め210億円でした。建設費の財源は大阪府市町村振興補助金、起債（地域総合整備事業債）、大阪府貸付金、基金等（市の予算）から賄われ、ランニングコストは指定管理者制度を通じて運営されています。

2. 主催事業の目的と課題について

主催事業の目的は、市民の文化振興と芸術の普及を図ることです。課題としては、施設の老朽化や維持管理費の増加、また駐車場の不足が挙げられます。

3. 平日の市民の利用頻度について

平日の利用頻度は、主に音楽や芸術のイベント、地域の集会などで利用されていますが、全体の利用率は59.3%とやや低めです。特に駐車場の不足が利用率向上の妨げとなっています。

4. 建設後、運営して行く上で必要だったと感じた設備について

運営上必要と感じた設備には、バリアフリー対応の手すりやエレベーター、空調設備の更新が挙げられます。また、インターネット環境の整備も重要な課題でした。

5. コロナ禍をへて、必要だったと感じた設備、不必要だったと感じた設備について

コロナ禍を経て、ソーシャルディスタンスを保つための座席配置変更や空気清浄機の導入が必要でした。一方で、集会やイベントの制限により、一部の設備は一時的に不必要と感じられました。現在の課題としては、老朽化した設備の更新と、インターネットを活用した新しいサービスの提供が求められています。

6. 現在の課題や今後の展望について

現状の課題は、施設の老朽化と駐車場の不足、利用率の低下です。今後の展望としては、インターネットを活用したサービスの充実や、地域の文化イベントの活性化を図ることが挙げられます。また、利用者の安全と利便性を向上させるための設備投資も必要とされています。

7、所見	施設規模の適正化: 現在の利用状況や少子化の進行を考慮し、過大な規模の施設は避けるべきです。現実的な利用見込みに基づいた、適正な規模の施設を計画することが重要です。 市民ニーズへの対応: 市民が求める文化活動やイベントを実施するための施設は必要です。特に、学校の発表会や地域イベントなど、広く市民が利用できる場としてのホールの役割を重視すべきです。 駐車場の確保: 視察を通じて、駐車場の不足が大きな課題であることが分かりました。新たな施設を計画する際には、十分な駐車スペースを確保することが必要です。 財政面の考慮: 新たな施設の建設には多額の費用がかかります。財政面での負担を軽減するために、民間企業との連携や補助金の活用など、様々な資金調達方法を検討することが求められます。 デジタル化と利便性の向上: インターネットを活用した予約システムや支払いシステムの導入は、利用者にとっての利便性を高めるために重要です。デジタル化を進めることで、運営の効率化も図ることができます。以上の点を踏まえ、市民ニーズに応えつつ、持続可能な運営が可能な施設の設計・運営を目指すべきだと考えます。
-----------------	---